

第3回池田町・地方創生戦略町民会議 議事概要

- 開催日時 令和2年7月21日(火) 14:00~17:00
- 場 所 開発センター 大ホール (洋会議室・和室・談話室)
- 出席者 委員16名 行政10名 事務局5名
- 傍聴人 町民2名

□ 開会

□ 委員長挨拶

今年は梅雨がなかなか明けない、新型コロナの問題も気がかりだが、それとともに各地で自然災害があり、非常に私も心を痛めているところである。前回少し議論にもなったが、自然災害に対して私たちがどのように高リスク、危機を出来るだけ下げられるか問われている気がする。前回「すみか」、「しごと」、「なかま」の「すみか」について議論いただき、今回はその続編で、特に、居住空間の確保に向けた支援制度等の在り方、あるいは雪や交通などの生活環境の在り方について議論いただきたい。しばしばこの会議でも自助、共助、公助という言葉が出るが、一人一人ができること、一人ではできないこと、役場を中心とした公助もあるができない部分もある。一人ではできないことや役場だけではできないことを、力を合わせて協同することがあらゆるテーマに関して問われている。今日はすみかに関する続きの議論、また忌憚のないご意見を頂けたらと思う。

□ 確認事項

- (1) 前回議事概要について
- (2) 「すみか」事業について(続き)
担当が資料に沿って説明

□ 協議事項(グループワーク)(洋会議室・和室・談話室)

- 「すみか」分野における意見交換(続き)
 1. 「居住空間の確保」における住宅整備支援制度について
 2. 「生活環境の改善・強化」(雪や交通)について

□ 意見交換内容の発表

(1) グループ1

- 地域の活力を維持するためには、人口問題は避けて通れない。それぞれの地区に入るには、地区の決まりを説明してその方に理解してもらい、自然体で溶け込む子育ての関わり方での移住が必要だ。
- 補助について、池田町は細かに実施されていて大変助かっている。ただ複雑なところがあるのでもう少しわかりやすくしてほしい。例えば45歳以下の年齢制限を見直すとか、60歳以上の方の減築補助など今後使える制度となるのでは。
- 雪について、池田町は雪が降る前提で政策を考えないといけない。区内道の排雪について、以前除雪機購入補助事業を活用したところもある。屋根雪については、屋根のトタン化や電気や灯油の融雪など様々な方法があるので効果を教えてほしい。雪下ろしは移住者の冬季の仕事となるのではないか。
- 公共交通について、なかま号やマイバス、スクールバス等十分に整っている。マイバスについて、無料券を配布して良さを実感してもらおうといい。再開発される志津原方面に、車を持たない観光客向けの交通手段も必要だろう。

(2) グループ2

- 人口がある程度維持できないと町を維持できないので移住は必要だ。受入れに積極的な集落に町営住宅を建てたり、子どもが多い地域に入ったりするなど住みたいという人にどういう対応するかが大切だ。
- 補助について、補助がなくても池田に住みたいという考え方でありたい。支援制度はわかりづらいところがあるので、もっと簡素化するべきではないか。宅地整備の支援も必要ではないか。
- 雪について、区内道の除雪は入る所と入らない所があり、精査してもらいたい。地域の住民だけでは対応できないこともある大雪の時は公共の力をお借りしたい。手押しの小型除雪機購入の補助や集落営農保有の除雪機など活用できないだろうか。屋根雪下ろしは、人手がもっと必要なので、登録して情報を出せるようにしてはどうか。屋根の融雪について、以前から池田で実験的に行っている融雪の効果や使い方など情報を出してはどうか。
- 公共交通について、なかま号やふくタク等が充実していることもあり、困っている声はあまり聞かない。ただ、電車で来る観光客には不便であろう。

(3) グループ3

- 高齢化社会で子どもの減少もあり移住は必要だ。理想は池田町で生まれ育った子どもたちがそのまま定住することだ。池田の年配の方が山の手入れや田の手入れをして美しい池田町が保たれていて、それを次世代に継承することが必要だ。よって、古民家改修の場合、山や田付きにして、池田のお年寄りのサポートを受けて山や田畑を守っていく活動も必要だ。
- 補助について、まず多世代化の補助金と新築・増築の補助金が非常に似ていてわかりにくいので一本化してはどうか。田畑を守っていく人とか、未来を創る子育て世代に重点をおいて、池田町で農林業に従事する人に補助金を手厚くしてはどうか。空き家の活用について、農林業に携わってもらう場合は、機具を入れる納屋や蔵が必要なので補助対象に含めてはどうか。補助金は支払い方を分割して定住する人に払う方法や一定の単価にするのも要検討である。
- 雪について、みんなで雪下ろしなどの共助も大事だが、どうしても同時期に集中するので、融雪補助も必要だ。池田町に電気代も安い融雪装置を設置している家もあるので、池田町のモデルケースとして町民に広めて行くのも大事だ。
- 公共交通について、マイバスや定期券補助やなかま号など概ね充実して助かっている人が多い。高齢者の送迎など集落単位で気軽に頼める仕組みが必要だ。75歳以上の安全装置整備制度の充実も必要だ。

□ 意見交換・総評

委員長：1つ目の移住については、やはり必要だとの意見が多かった。田園回帰があり、農村移住への関心は高まっていることは事実である。新型コロナの問題でリモートである程度仕事ができることが分かった都市部の人達が地元に戻るということも現に多くなっていると聞いている。関連して、補助も必要だがわかりにくいという意見が多かった。「池田町生活応援事業ハンドブック」の「すみか」に関しては、19ページ以降4ページに渡って施策が並んでいるが、暮らし方や対象の世代などが見えにくいし、重なっているところもある。町では当然財源が限られているが、例えば单身なのか子育てなのか要介護者なのか再整理をして重複しているところは集約して、農林業など仕事オプションをつけるなどかなり思い切った組み換えが必要ではないか。

2つ目のテーマについて、雪の問題は電気融雪や雪下ろしグループの登録の話など情報公開をもっと進める必要があるのではないか。もう一つ公共交通については、かなり手厚い、ありがたいという意見が多かった。高齢者の方が元気に車を運転することは悪いことではないが、世の中の流れは高齢者に免許返

納を勧める流れになりつつある。そういう点では、公共交通を改めて見つめ直し、有用性を問い直す必要がある。

委員： 町民の数が減っても地方創生は成立するのかについて、改めて聞きたい。

委員長：地方創生の話イコール人口を増やす話になってしまっている。何も人口を増やすことは考えなくていいとは言っていないが、むしろ池田町の理念にあるように宝物を次世代にどのようにつなげていくかが地方創生の根幹にあるべきで、その一つの重要課題として人口問題が挙げられる。とは言いながら各市町村が人口の取り合いになっている。限られたものを奪い合う不毛な争いはやめて、このまちとして次世代に向けた社会づくりを考える時期ではないか。もちろん人口を増やすことも大事だが、関係人口など色々な形で関わることを当面は考えてやっていくことではないか。

副町長：地方創生のためにプレイヤーが足りないからお金でプレイヤーを増やすのはちょっとという意見もあった。人口が減っても集落や団体の活動量が1.5倍になったら実質活動量は今まで以上になるように、数が減って駄目ではなく、数が減ったらその分みんなで活動量を増やしてプラスにすると地方創生の可能性がでてくるのではないかと思うが、先生のご意見を聞きたい。

委員長：同感で、組織のメンバーが減少し、活動が少なくなりどうしようかという時に、メンバーを増やすことも努力しなければならないが、一人一人の意識や一人あたりの活動量を少し増やす、あるいは、一人一人が一生懸命頑張るのではなく、協力し合って1+1を3にしたり掛け算にしたりするといいのではないか。

委員： 会社で人を増やしてくれと言っても現状維持で、中高年が一生懸命頑張っているが、なかなか若いものを育てる余裕がないのと同じような状況ではないか？

委員長：若い者のために、中高年が頑張りすぎるのもあまりよくないと思う。人口が減っている社会の中で、若い者も含めて、意識と活動量を増やせたらいい。

次回の日程について

8月6日（木）にしごと1回目、8月20日（木）にしごと2回目を実施予定とする。

閉会